心を込めて成型した作品を薪窯で焼成する。時間も労力も必要な作業。

笹間は山の恵みを活かした茶業が盛んな地区。手慣れた手付きでお茶摘みに励むマリノさん。

笹間の人々との交流も楽しみなひととき。"笹間の人間"同士で語り合う。

ここには私が思う「本当の日本の文化」があります。

陶芸家
島田市山村都市交流センターささま職員

ジョセフィン・マリノさん

1993年、フランス共和国ブルゴーニュ地方ディジョン生まれ。14歳の頃に陶芸を始め、陶芸の学校で4年間学ぶ。2年生の時に陶芸家・道川省三氏の作品を見て衝撃を受け、日本の陶芸や文化へ強い関心を抱く。パリの芸術学校卒業後、道川氏のすすめで島田市川根町の笹間へ移住。現在「島田市山村都市交流センターささま」の職員としてイベント、陶芸体験の講師、カフェの運営などに関わりながら、自身の作品づくりに励む。

「一般的にフランス人が思い描く日本のイメージは、おすしとアニメばかり。でも、私は本当の日本の文化を学びたかったんです」。

フランス人のジョセフィン・マリノさんが移り住んだのは、島田市北端の山間にある笹間地区だ。少子高齢化が進むこの小さな村は、マリノさんが敬愛する陶芸家・道川省三さんの発案で、2011年から2年に一度、「ささま国際陶芸祭」が開かれている陶芸の郷。マリノさんは現在、島田市山村都市交流センターささまの職員として働く傍ら、自らの作陶に励んでいる。

「笹間は、山、川、茶畑が広がり、すべてが美しいのですが、一番素晴らしいのは、やっぱり人。ここの人たちの判断は、笹間の人間か否かだけで、外国人も日本人も同じなんです。でも、よそ者に対する壁はなく、みんな親切で優しい。隣近所で助け合って暮らす、大きな家族みたいです」。

笹間で約5年を過ごしたマリノさんが感銘を受けたのは、知識や経験に基づく人々の生きる力だという。「野菜は畑で作る、モノが壊れたら直して使うといった持続可能な日常を、豊かな自然とともに、当たり前のように過ごす。これこそが本当の日本の文化だと思います」とマリノさん。

「人との関わり、人から学ぶことの大切さを笹間で知りました。だから私も多くの人にここを好きになってもらいたい。地域が存続できるようにお手伝いしたい。そして、陶芸作品を通して、さまざまな人と交流したい」。充実した暮らしぶりが浮かぶ笑顔は、笹間への愛にあふれている。